

株式会社グリーンメッセージは、キューピー株式会社と全国農業協同組合連合会の出資により設立された業務用サラダ野菜メーカーです。同社はキューピーグループが培ってきた野菜加工技術と品質管理により、JA 全農の調達力を活かした産地・生産情報が明確で鮮度の高い国産野菜を使用して、サラダやサンドイッチ、その他のトッピング用などに、洗わずにそのまま使える生食用野菜を提供してまいります。

この度、同社にご協力いただき、先進事例見学会を開催いたしました（開催日：平成 27 年 9 月 29 日（火）13：00～15：00、参加人数：38 名）。なお、今回は大勢の方にご参加いただいたため、ライブ映像を通しての見学会となりましたが、その概要についてご報告致します。



グリーンメッセージの入口正面玄関

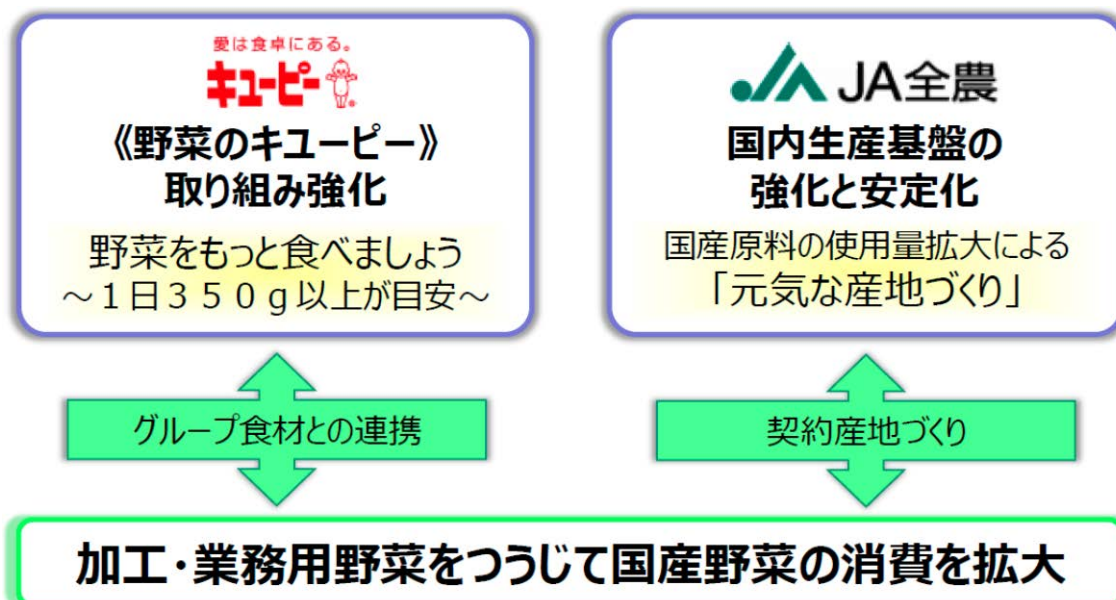


当日の受講風景

1. グリーンメッセージ設立の目的

キューピーは「野菜のキューピー」の取り組みとして、サラダクラブ（パッケージサラダの製造販売会社）のように野菜そのものの製造や販売にもっと踏み込んでいきたいと考えてきました。また、JA 全農は「国産野菜をしっかりと評価して加工・業務用に販路を広げていく」ことで、元気な産地を増やしていきたいと考えており、そのためには業務用野菜に活路があるという点で両者の思いが一致して、グリーンメッセージは誕生しました。キューピーと JA 全農がそれぞれ得意な分野に接点を見いだしていくとサラダに使われる葉物野菜がやはり中心になるだろうということで、グリーンメッセージで扱うのは業務用のサラダ野菜に特化しております。

- ◆食の外部化(中食・外食) ⇒ 加工・業務用向け野菜需要の拡大
- ◆ライフスタイルと社会構造の変化 ⇒ カット野菜マーケットの急拡大



グリーンメッセージ設立の目的

2. グリーンメッセージの概要

グリーンメッセージの会社設立は2013年12月ですが、実際に操業を開始したのは2015年5月からとなります。基本コンセプトとしてコールドチェーンに徹底的にこだわっており、工場入口の荷下ろし場をはじめとして、すべての工程において低温下で野菜の加工ができるように管理されています。特にキャベツとレタスは産地と直接つながりたいという思いから産地直送を前提としていますが、この工場では産地からやってきた配送トラックが直接建屋内に入れるため、屋内で荷下ろしすることで直射日光や風雨の影響も防ぐことができます。

この工場の敷地面積は約4千坪で延床面積も12百坪あり、敷地内から豊富に湧出する地下水を有効利用しています。(夜間も含めて)フル稼働したときの生産能力は、製品ベースで年間約8千トンです。

建屋は平屋構造で、屋内で直接荷下ろしされた野菜は一直線にラインを流れて加工されます。荷下ろしされた野菜は一度冷蔵庫に保管されますが、その後、開梱して段ボールから取り出され、カットされたり芯が取り除かれます。また、この工場では人の靴裏による汚染を防ぐため別の作業場に移動する際は、一度通路に出なければならないようにルールが定められています。その後、殺菌して脱水された野菜は、出荷室で袋詰や箱詰などそれぞれの荷姿に加工されます。また、消費期限はそれぞれの荷姿に加工された時点につけられ、加工されてから3日間日持ちがすることを基本にしています。

最終的な商品形態は、業務用といっても昨今は小容量の要望が増えており、たとえばキャベツだと 300～500 g の小袋型が多くなっています。加えて、スーパー向けにはドレッシング類とセットにして利便性をアップした商品形態も提案しています。

なお、この工場ではまだ外部認証を取得していませんが、キューピーグループでは全工場の FSSC22000 の認証取得を目指していることもあり、この工場でも 2016 年中の認証取得をめざしております。


本社所在地	神奈川県大和市下鶴間 2415
敷地面積	4,084 坪
延床面積	1,200 坪
生産能力	8,000 トン/年（製品ベース）
資本金	20 億円（キューピー 51%：全農 49%）
操業開始	2015 年 5 月
生產品目	業務用サラダ野菜
従業員数	約 100 名（パート含む）


グリーンメッセージの概要


3. グリーンメッセージ《サラダ野菜》の特長

グリーンメッセージのサラダ野菜の特長は、まず原料調達において JA 全農の調達能力をフル活用して、JA 全農の子会社である JA 全農青果センターから全ての原料の供給を受けていることです。また生産技術の点では、キューピーグループの培った生産技術がこの工場にも大いに活用されています。

さらに生産者が丹精込めて作った野菜を少しでも美味しく届けたいという思いから、製法についても工夫しています。

①原料調達
国内最強の集荷機能を活かした  JA全農
国産原料の安定調達

②生産技術
温度管理と品質管理にこだわり 
安全・安心を担保

③製法
野菜の特性を理解した製法により 
野菜本来の味を提供

グリーンメッセージ 《サラダ野菜》 の特長

サラダ野菜、ネギなどの生食用に特化



商品アイテムの一例



平成 27 年度 【第 2 回】 先進事例見学会の概要

福岡市中央卸売市場青果市場

～アイランドシティに新青果市場「ベジフルスタジアム」が誕生～
アジアを視野に入れた九州の青果物流拠点・ふくおか
市場ブランドの発信基地をめざして！

福岡市中央卸売市場の青果部 3 市場（青果市場（博多区那珂）、西部市場（西区石丸）、東部市場（東区下原））がアイランドシティ（博多湾埋立地）へ移転し、平成 28 年 2 月に新青果市場（愛称：ベジフルスタジアム）として開場しました。

ベジフルスタジアムは、機能的な施設配置を考慮した、取引形態に合わせた施設区分になっており、場内物流の効率化と安全性を考えたコンパクトな施設であるとともに、食の安全性確保のためのコールドチェーンとして十分な機能を有しています。また、福岡市内産だけでなく九州各地から美味しく新鮮な青果物を集め、この市場を経由した青果物が安全・安心だという信頼を得られるように、新市場のブランド化にも取り組んでいます。

さらに、ベジフルスタジアムは福岡都市圏への青果物の安定供給にとどまらず、「アジアを視野に入れた九州の青果物流拠点」を目指しており、港湾エリアという立地を活かし、日本の青果物の人気が高い香港や台湾などアジアを中心に、海外への販路拡大も想定されています。

今般、同市場の(株)福果物流様にご協力いただき、開場したばかりの新市場を見学させていただきましたので、その概要について以下にご報告します（見学日：平成 28 年 3 月 17 日（木）



ベジフルスタジアムの全景

10：00～12：00、参加人数：30 名）。

◆ベジフルスタジアムの整備概要

ベジフルスタジアムは敷地面積が約 15 万㎡で、建物も約 10 万㎡あり、主に大量物流に対応する卸売場西棟、小売業者等に対応する卸売場東棟、イベント開催が可能な多目的広場、そして青果市場会館で構成されています。また、卸売場の 84.4%に当たる 9,946 ㎡が密閉式の定温卸売場として整備されており、コールドチェーンに対応した施設で、品目ごとに適切な温度管理が可能となっています。

所在地	福岡市東区みなと香椎 3-1-1
敷地面積	150,000 m ² (用地費：約 164 億円)
延床面積	約 103,000 m ² (卸売場：11,786 m ² /仲卸売場：11,124 m ² /買荷保管積込所：11,181 m ² /冷蔵庫：8,750 m ² /関連事業者店舗：約 3,235 m ²)
主体構造	卸売場西棟：鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC 造) + 鉄骨造屋根 2 階建て 卸売場東棟：鉄筋コンクリート造 (RC 造) 3 階建て 青果市場会館：鉄筋コンクリート造 (RC 造) 3 階建て
建設費	約 199 億円 (うち国交付金約 67 億円)
計画取扱高	年間 30 万トン (取扱高については、過去 10 年間の実績や今後の人口推移等から一定の伸びが見込まれるが、コンパクトな施設計画や商物分離取引の伸展など物流の効率化を図ることにより、計画取扱高を現状物流と同程度の 30 万トンに設定している。)
開場日	平成 28 年 2 月 12 日 (金)

整備概要

◆ベジフルスタジアムの主な特徴

特徴 1 取引形態に合わせて施設を区分：機能的な施設配置

- 卸売場西棟 ⇒ 相対取引を中心とした大量物流に対応
- 卸売場東棟 ⇒ せり取引を中心とした小売業者等に対応
- 仲卸店舗 ⇒ 営業形態や規模等に応じ 3 種類に分け、卸売売場に面して各々に対応したゾーンに配置



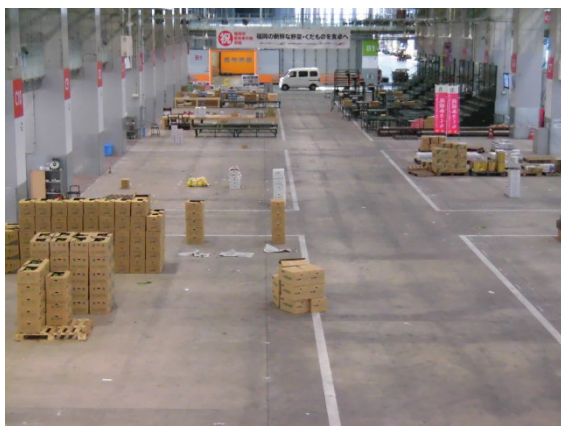
卸売場西棟の荷捌場



卸売場東棟のせり場

特徴2 効率性や安全性を考慮したコンパクトな施設計画:場内物流の効率化

- 入荷用通路から買荷積込所までを一つの建物に集約（全有蓋化）
⇒ 品質管理と作業環境の向上
- 入荷から配送までの流れ（物流動線）が効率的になるように配置
⇒ 物流動線の明確化及び短縮化
- 冷蔵庫（物流センター：業界自主整備施設）を卸売場に隣接させ、3個所に分散して配置
⇒ 物流動線の短縮化及び利便性の向上
- 卸売場西棟に10tトラック20台が同時に荷降し可能な入荷用通路（幅員：20m、延長：220m）を配置
⇒ 荷卸し作業の円滑化及び集約化
- 場内基幹通路を基幹施設（卸売場棟等）の外側に配置
⇒ 搬出入車両と市場内搬送車両との動線の交差を最小限化
- 物流エリアから明確に分離するため、通勤車両と搬出入車両に専用出入口を設け、通勤車両用駐車場を卸売場東棟屋上に集約して配置
⇒ 物流動線の安全性及び円滑性を向上
- 仲卸店舗・事務所や定温卸売場を屋内屋として構造体と内部の間仕切壁・天井を分離し、完全に独立した形で計画
⇒ 将来的な機能変化に対する施設改変のフレキシビリティの確保



卸売場西棟の入荷用通路



卸売場東棟屋上の通勤車両用駐車場

特徴3 コールドチェーンの充実：食の安全・安心を確保

- 卸売場の大半を密閉式の定温卸売場（業界自主整備施設）として整備
⇒ 旧青果市場の約7倍に拡充
- 冷蔵庫（物流センター：業界自主整備施設）の充実
⇒ 旧青果市場の約1.5倍に拡充

特徴 4 市場会館棟と多目的広場を一体的に配置：市場施設の一部を市民に開放

- 市場会館棟内の関連事業者店舗に接続したイベント開催可能な多目的広場を整備
⇒ 市民の認知度向上及び市場活性化

特徴 5 低炭素化・環境保全の取組：環境負荷の軽減

- フォークリフト・ターレット用の共同充電設備を設置
⇒ 市場内搬送車両の電動化推進
- 大規模太陽光発電設備（メガソーラー）の設置
⇒ 再生可能エネルギー導入の推進
- 生ゴミ再資源化（リサイクル処理）
⇒ 廃棄物の抑制・減量・再資源化の推進



ターレットの共同充電設備

特徴 6 入退場管理システムの導入：管理体制の強化

- ICチップを搭載したIDカードを車内からかざすことで自動的にゲートが開く、コインパーキング方式のシステムを車両出入口に導入（監視カメラも併せて設置）
⇒ 場内の保安警備向上及びスムーズな入退場の実現

特徴 7 自然災害への対策：市場機能の持続

- 主要施設の高い耐震性を確保（地震荷重を通常より25%増） ⇒ 地震対策
- 敷地北側への防風フェンス（有孔折板）の設置 ⇒ 北風対策
- 卸売場棟の有蓋化 ⇒ 塩害対策
- 集中豪雨にも対応できる雨水排水計画（雨水一時貯留槽の設置等） ⇒ 豪雨対策

◆市場付属施設(中継所)

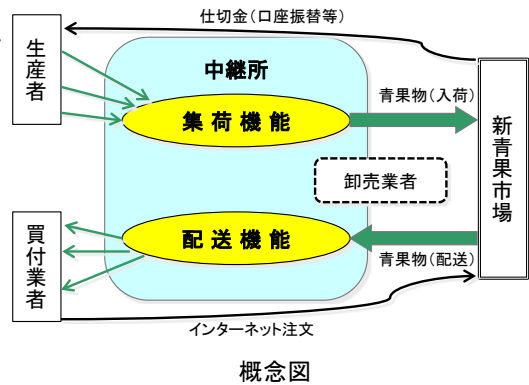
市場に来なくても取引に参加できる方策として、中継所機能を持つ市場付属施設を整備しています。

【中継所の機能】

- ・生産者のための集荷機能、買受業者のための配送機能

【設置場所】

- ・旧青果及び西部市場用地の一部
(既存施設を利用)



概念図

◆見学会の様様



当日の受講風景



青果市場会館2階にオープンしたレストラン



定温卸売場内での説明風景



今回の見学会にご対応いただいた
株式会社福果物の古澤誠一 取締役部長